

みんなの「わ」が見つかる

食とわ



エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社  
経営企画室サステナビリティ推進部

# エイチ・ツー・オー リテイリンググループ



関西を基盤に百貨店、食品スーパーなど  
250店舗の小売店を展開する流通グループ  
西日本一の売上 阪急本店  
大阪の台所 阪神本店  
関西有数の食品スーパー連合

ーグループビジョンー

「楽しい」「うれしい」「おいしい」の価値創造を通じ  
お客さまの心を豊かにする暮らしの元気パートナー

# H20リテイリングのサステナビリティ活動

with LOCAL

#for LOCAL

地域共創型活動

私たちも地域の一員として、地域社会や住民、学校、企業、グループの従業員が参画し、手を携えて協業していくこと

# 食品ロスと向き合う

大きすぎる

身近すぎる

複雑すぎる

生活者にとって食品ロスの課題は・・・

大きすぎる

→規模が大きすぎて自分のこととして捉えづらい

身近すぎる

→課題感を持ち続けることが精神的にも負担

複雑すぎる

→生活者だけでできない複雑さ

# 地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリア



食品スーパーへの  
バイオコンポスター導入



家庭用コンポスト参加者と  
堆肥を活用した畑栽培



屋外での食材持ち寄り  
調理イベント



小学生向けエコアイデア  
表彰式

環境省 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業

食品スーパーでも、各家庭でも、  
街なかのイベントでも、食品廃棄ゼロを実現し、  
食品廃棄ゼロエリアを目指す

2022年

川西(兵庫県)に循環を生み出す

2023年

川西を地域内循環がみえる、わかる街に

2024年

川西からエリアを拡大→宝塚、梅田、池田

# 食とわ

食べ物をつなぐ、“わ”をひろげる

エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社



食にいいことを見つけよう



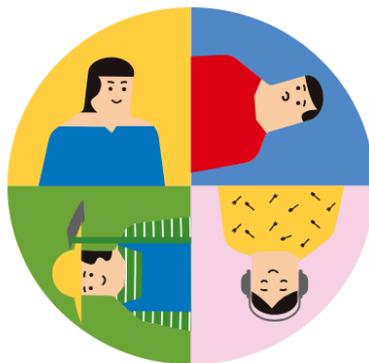
🔍 食とわとは？ →



環

CIRCLE

食べものを無駄にせず、循環させる仕組みを育む。



輪

CONNECT

食べる人、つくる人、届ける人がつながり、一緒に考える輪を広げる。



話

COMMUNICATION

気軽に語り合い、楽しみながら「食」の新しい形をつくる。

# “捨てる”から“育てる”へ 食とわコンポストチャレンジ



コ  
手

コンポスト部  
コンポスト部  
コンポスト部

コスモスを  
大切に育てたい!!!  
RYO

川西+池田でも  
やりまじろう

コンポスト部  
サイコー!!  
LIVE!

皆さんと参加でき  
ると嬉しいので  
コンポスト部  
になります。

コンポスト部  
参加できると嬉しい

成長の楽しみ

五月山動

コンポスト部  
植物が  
Yourselves

緑サ  
ン

## 食とわコンポストチャレンジ



キッチンの生ごみを  
「捨てる」から「育てる」に。

微生物の力で生ごみを堆肥化。  
できた堆肥を持ち寄り、  
街をみどりでいっぱい。

延べ400世帯を超える  
家庭で実践。

# 食とわコンポストチャレンジ 取り組み①コンポスト実践



株式会社地球Labo  
agripoucher®コンポストバッグ

- おしゃれなデザイン  
⇒カジュアルに楽しく！
- 丈夫で分厚い生地  
⇒虫や臭いの問題が起きづらい構造
- リサイクルPET素材の活用  
⇒バッグ自体が資源循環を体現
- 堆肥の使い道がない…  
⇒まちの緑化に活用



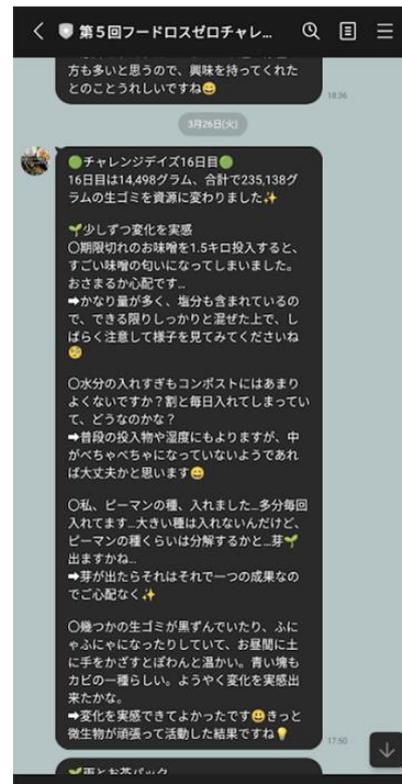
## 計量・報告

少し手間はかかるが、自身のゴミを定量的に知る、貴重な機会



## コンポスト実践

家族と分担したり、コミュニケーションのきっかけにも



## 集計報告・感想共有 ・フィードバック

初心者がつまづきやすい点のフォロー、生ごみを減らす工夫や購買行動の変化を共有

## 取り組み②堆肥活用—他の興味との掛け合わせ

堆肥を持ち寄り、まちの緑化。  
 パートナーとの共創により、通行量が多い場所や、よく知られている場所で活用。  
 参加者にとっても、通りがかりの人にとっても地域が好きになる機会を創出。

### 兵庫・川西 市民ホール前 キセラ川西プラザ

パートナー 川西市

バレエや演奏の発表会などハレの場のホールの目の前、  
**未活用のスペースを花壇に**。  
 地域事業者、周辺保育所とともに取り組みの内容が**絵でわかる看板**を設置。季節ごとの植え替えでは、園児からご年配まで幅広い世代から声をかけられる場に。



### 兵庫・川西 鉄道駅ホーム内 能勢電鉄絹延橋駅

パートナー 能勢電鉄(株)



ローカル鉄道の駅ナカの**未活用の畑を開墾**。参加者とともに伝統野菜の栽培に挑戦。水やりも参加者自身で実施し、成長の様子を参加者同士で共有しながら栽培。普段口にするものとの形や味の違いも**五感で味わう**。



### 兵庫・宝塚 中心市街地通り 宝塚花のみち

パートナー 宝塚市



駅から劇場へ続く中心市街地の象徴的な通り沿いの**未活用の場に花壇を整備**。  
 「花のみち」の名の通り花々が生き生きと咲く場所となり、**花壇とホテルを背景に記念写真**を撮る光景も。

## 取り組み②堆肥活用—他の興味との掛け合わせ

堆肥を持ち寄り、まちの緑化。  
パートナーとの共創により、通行量が多い場所や、よく知られている場所で活用。  
参加者にとっても、通りがかりの人にとっても地域が好きになる機会を創出。

### 大阪・梅田 屋上庭園 梅—グリーンプロジェクト

パートナー 阪神園芸(株) コンポスト堆肥を都市の緑化に活用。常緑が当たり前と思いがちな高層ビル壁面と屋上の緑化の苦労と工夫をプロのガーデナーから聞き、**みどりの循環への理解を深める**機会に。



### 大阪・池田 動物園 五月山動物園

パートナー  
(一財)池田みどりスポーツ財団



動物のえさづくりのためのコンポストへのチャレンジ。人間も動物も暮らしやすい地球環境を意識する機会になる。**「動物のため」という切り口**により、必ずしも環境への意識が高くない参加者も自然にコンポストを日常に取り入れ、習慣化のきっかけに。

### 兵庫・宝塚 宝交早生苺栽培

パートナー 宝塚市、甲子園大学



かつて苺の一大産地であった兵庫県。宝塚で生まれた宝交早生を栽培し、地域への愛着に。苺が持つ魅力、甲子園大学や光明小学校といった**教育機関との協働取り組み**により、関わり白を拡大。

## 定量的な実績

2022年10月にはじまり、実施は7回を重ねる。  
 参加世帯数・参加者数は拡大傾向にあり、延べ420世帯、  
 1,300人の参加により、1.6トンの生ごみを資源に転換(堆肥  
 換算で推計500キログラム)。  
 取り組みへの満足度、継続意欲は高く、この取り組みを通じた  
 行動変容がみられる。フードロス削減のためのひと手間や追  
 加的成本に対しても寛容度が向上している。

2022年10月  
**第1回**  
 38世帯  
 115名参加  
 139kg資源化

2023年3月  
**第2回**  
 40世帯  
 136名参加  
 167kg資源化

2023年7月  
**第3回**  
 45世帯  
 138名参加  
 168kg資源化

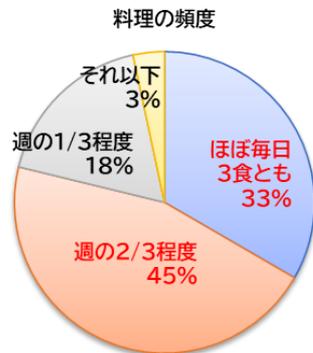
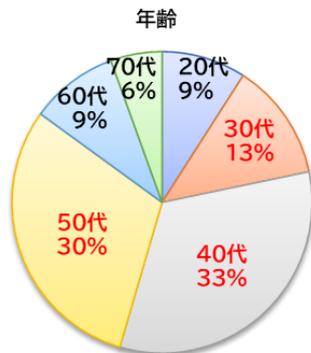
2023年10月  
**第4回**  
 61世帯  
 192名参加  
 237kg資源化

2024年3月  
**第5回**  
 75世帯  
 210名参加  
 302kg資源化

2024年7月  
**第6回**  
 70世帯  
 200名参加  
 286kg資源化

2024年10月  
**第7回**  
 94世帯  
 295名参加  
 316kg資源化

420世帯1,300人参加  
 1.6トンの生ごみが資源に



## 高水準の満足度・継続意欲・推奨度

参加した感想  
 (1:不満足~5:満足)

4.5

コンポストを継続したい

96%

友だちや知り合いに話した  
 or話したい

92%

## 「自分にもできる」という具体的アクションの発見

今の気持ちに近いものを選択

今まであまり考えてなかったことを考えるきっかけになった 10%  
 なんとなんか気にしていたことが、より明確になった 13%  
 気にしていたことがより明確になり、行動に移したい 10%  
 何かしなないといけないと思っていたが、自分にもできそうなことが見つかった  
 すでに自分でも取り組んでいることがあったが、さらに広がった 26%

42%

## フードロス削減への理解促進と高い対価支払い意欲

フードロス減らすような行動は  
 どのくらい手間だと感じますか？

ほとんどかからない  
 確かに手間だがさほど変わらない

86%

フードロス由来の堆肥を使った  
 作物を買いしたいと思いますか？

価格に関係なく積極的に～  
 微妙に高いくらいなら選ぶ **73%**  
 一般商品並みなら選ぶ **24%**

※一般向けアンケート 一般商品並みなら 50%  
 安いなら選ぶ 25%

## 参加者の声



投入するものによって土の匂いが大きく変化するのも面白く、とにかく五感が刺激される毎日でした。**買い物するときも意識**するようになり、楽しんでしていたことが、結果的に地球に良かった！

毎日の作業は少し手間でしたが、この取り組みがどういうゴールに着地するのかという**未来の目標が見え**ると頑張れました。

曖昧だった**ゴミの分別**にも、子供達が**意識**してくれるようになりました。これからも、環境について考えていけたらと思います。

フィードバックを共有してくださる点は、**自らの振り返り**と、**新たな学び**に繋がり、とっても有意義で初心者には大変嬉しいポイントでした。

チャレンジされてる皆さんの気づきや感想を知る事で、わたし自身の気づきにも繋がったりしました。**父が近所で畑を借りたので、出来たら堆肥を活用**できることがとても**楽しみ**です。



”捨てる”から”活かす”へ  
食とわクッキング

## 食とわクッキング



家庭やお店で持て余している食材を「捨てず」に、「活かす」。

食材を持ち寄り、即興で調理するサルベージ・パーティ®。

メニュー起点ではなく、食材起点で、料理を考える。

調理で出た生ごみはコンポストによって食品ロス・食品廃棄ゼロに。



参加してくれたお子さん

つくってほしい。

# ともに創るパートナーを



## 共創ネットワーク拡大

「地域とともに実現する資源循環」をテーマに  
実践事例の紹介、有識者による価値の可視化  
ノウハウの共有と共創ネットワークの創出を目指す

2024年11月26日 13時～17時  
資源循環シンポジウム  
阪急うめだホール(大阪市・梅田)

参加者総数 125名  
(企業 59名、行政・自治体 41名、  
団体・教育機関 9名、個人 16名)  
メディア取材 5社



子どもたちの未来につなぐ循環を

資源循環  
シンポジウム  
2024

# Tsugu.

本シンポジウムは環境省「令和6年度 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等」に採択を受け、  
「地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリア2024プロジェクト」の一環として開催します。

2024.11.26 火 午後1時-5時

in 阪急うめだホール ※要予約 ※入場無料

大阪市北区角田町8番7号 阪急うめだ本店9階

資源循環は、事業者や行政だけの課題ではなく、  
生活者一人ひとりも日々の暮らしで少しずつ意識し、行動することが欠かせません。  
このシンポジウムのテーマは「地域とともに実現する資源循環」。  
多様なプレーヤーたちがどのように共創・協働の関係を築き、取り組んできたのか……  
生活者と事業者、行政が、衣食住を横断して実践してきた資源循環の事例を、  
講演やトークセッションを通してご紹介します。  
地域とともに実現する資源循環について一緒に考えてみませんか？

主催：エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
後援：環境省  
対象者：廃棄物削減、資源循環に向けた生活者や事業者との協働に興味・関心がある方  
プログラム：こあいさつ（午後1時～1時20分）

第1部（午後1時20分～3時）「地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリア構築」

第2部（午後3時30分～5時）「2025年に向けたチャレンジ@大阪」

※詳しい内容は裏面をご参照ください

ご予約・お問い合わせ

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 経営企画室 サステナビリティ推進部  
右記の二次元コードのご利用、または下記のメールアドレス宛てに、お名前と  
ご所属先、参加人数をご記入のうえお送りください。

[sustainability@h2o-retailing.co.jp](mailto:sustainability@h2o-retailing.co.jp)



## プログラム

### 開 会

13:00 **主催者あいさつ**  
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 代表取締役社長 荒木 直也

**来賓あいさつ**  
環境省 環境再生・資源循環局 次長 角倉 一郎氏

### 第1部 地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリア構築

13:20 **「食品廃棄ゼロエリアモデル事業から見る地域で循環をつくる意義」**  
東京農業大学 国際食糧情報学部 国際農業開発学科 農業環境科学研究室 准教授 入江 満美氏

13:40 **食品廃棄ゼロエリアモデル事業①**  
**「地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリア 2022～2024」**  
トークセッション  
株式会社地球Labo代表取締役 上野 晴人氏  
一般社団法人フードサルベージ 代表理事 平井 巧氏  
フードロスゼロチャレンジデイズ参加者 山下 優子氏

**講演①**  
宝塚市長 山崎 晴恵氏  
甲子園大学 栄養学部 食創造学科 准教授 松岡 大介氏

**講演②**  
五月山動物園 園長 瀬島 幸三氏

14:30 **食品廃棄ゼロエリアモデル事業②**  
**「食品廃棄ゼロ京都プロジェクト 食品ロスゼロ×食品リサイクル100%」**  
公益財団法人Save Earth Foundation 業務執行理事 百瀬 則子氏

14:50 **「食品廃棄ゼロエリアモデル事業の総括」**  
環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室長補佐 村井 辰太郎氏

### 第2部 2025年に向けたチャレンジ@大阪

15:30 **「大阪府における公民連携の意義と拡がる共創活動」**  
大阪府 財務部長（公民戦略連携デスク所管） 金森 佳津氏

15:45 **「大阪発 サステナブルファッション・プラットフォーム『oHOHoプロジェクト』**  
大阪府 環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課 課長 吉永 篤史氏

16:00 **「みどりと共生する地域社会 循環型社会への取り組み」**  
阪神園芸株式会社 専務取締役 植村 弘氏

16:15 **「大阪森の循環促進プロジェクト×大阪・関西万博『想うベンチプロジェクト』**  
一般財団法人大阪府みどり公社 森林整備・木材利用促進支援センター長 薬師寺 徹氏

16:30 **「脱炭素行動をポイントに変える『EXPOグリーンチャレンジ』**  
OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーション 代表理事 田中 靖訓氏

16:40 **「CO2排出削減に取り組む商品・サービスを可視化『デカボスコア』**  
Earth hacks 代表取締役社長 CEO 関根 澄人氏

16:50 **クロージング**  
畿啓大学 学長補佐 特任教授・神戸大学 名誉教授 石川 雅紀氏





# 食品ロスと向き合う

大きすぎる

身近すぎる

複雑すぎる

生活者にとって食品ロスの課題は・・・

大きすぎる

→「目に見える」取り組みに

身近すぎる

→きっかけは自分の暮らしのアップデート

毎日が楽しくなる、結果として環境にも貢献

複雑すぎる

→生産にも携わり複雑さを受け入れる心持ち

## ディスカッションテーマ

- ◎ 取り組み発展のターニングポイント
- ◎ 自治体との共創について
- ◎ 課題と今後について